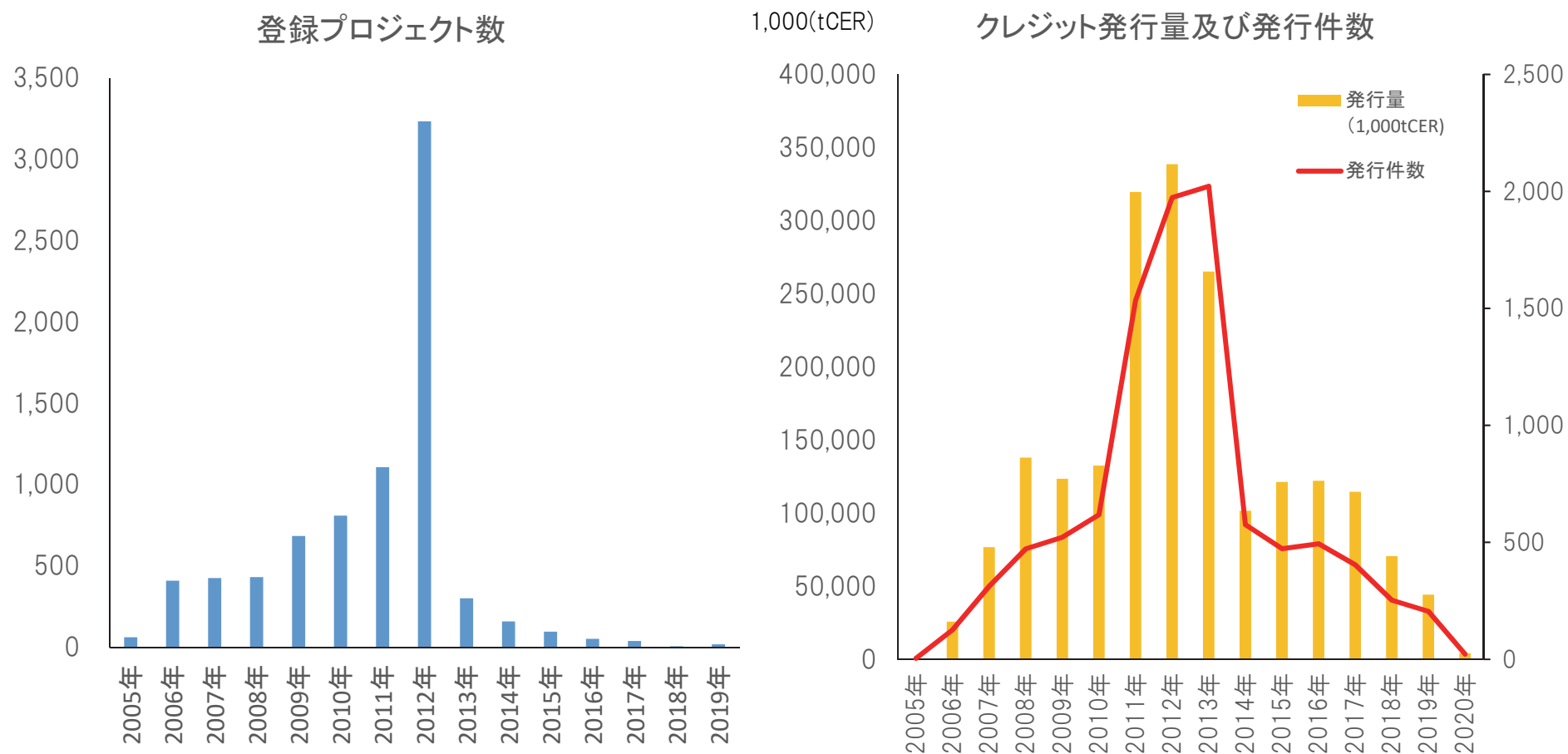




炭素市場に関する国際的な動向

気候変動とエネルギー領域
プログラムマネージャー
高橋健太郎

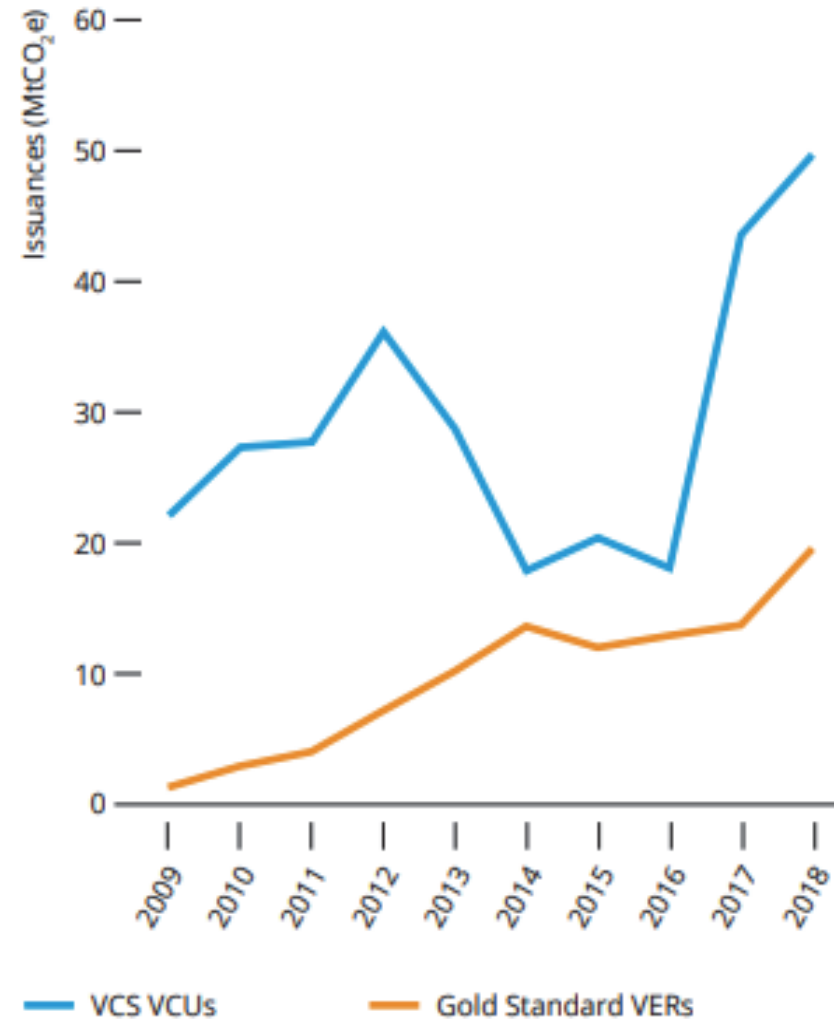
クリーン開発メカニズム(CDM)



- 登録CDMプロジェクト数は2013年以降激減したが、クレジット発行量は一定量の発行を継続。次回COP26で、CDM活動及びCERクレジットのパリ協定第6条4項への移管を決定予定。

自主的炭素市場

- 世界銀行報告書によれば、2018年第1四半期時点で、2005年から2,000件以上のプロジェクトから約4億3,000万トンのクレジットが発行。
- 2005年以降発行されたクレジットのうち、75%以上がVerra's Voluntary Carbon Standard (VCS)及びゴールドスタンダードから発行。
- 2019年に出版されたEcosystem Marketplaceの報告書によれば、CDMはパリ協定第6条およびCORSIAによる決定により影響を受ける可能性があるため、多くのCDMプロジェクト開発者が、自発的な市場に目を向けていると報告されている。



出典: 世界銀行 State and Trends of Carbon Pricing 2019

パリ協定第6条関連プログラム及び制度

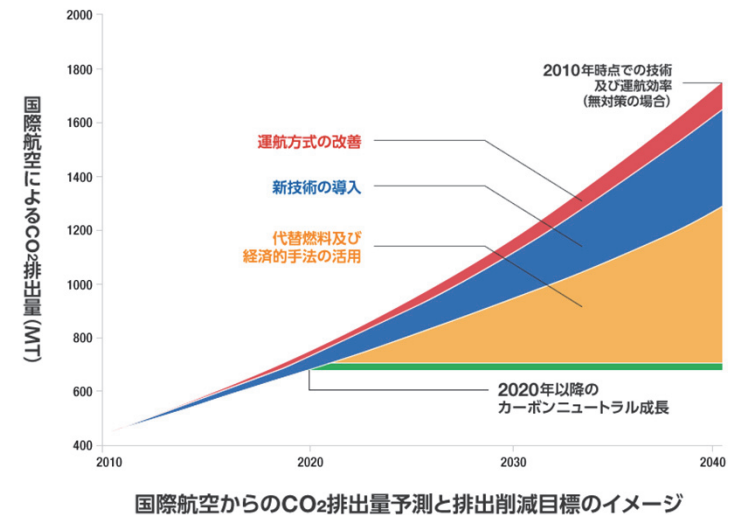
制度又はプログラム名	概要
二国間クレジット制度 (JCM)	日本政府と17のパートナー国で実施するクレジット制度。
Klik Foundation for Climate Protection and Carbon Offset	Klik財団が運営。スイス国内での自動車燃料の使用によって発生する排出量の一部をオフセットするために、国際的なクレジットを調達。2021～2030年の期間で5,400万トンを予定。
Climate Cent Foundation	海外での活動を対象とし、パリ協定第6条に基づく活動を支援予定。スイス国内の気候委員会と協議の上、活動を決定。
Transformative Carbon Asset Facility (TCAF)	COP21でTCAFを設置。政策やセクターベースのプログラムを支援するとともに、プログラムで生じたクレジットを調達。
Article 6 Support Facility	ADBの炭素市場プログラムの後継版。予算は約4.3億円。ドイツ政府・スウェーデンエネルギー庁も支援。

国際民間航空のためのカーボン・オフセット及び削減スキーム

国際民間航空のためのカーボン・オフセット及び削減スキーム(Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation: CORSIA)

- CORSIAは2021年より運用が開始され、各運航会社は、定められたルールに沿って必要量の排出枠を購入し、オフセットする義務がある。
- オフセットの義務については、制度の開始初期は国際航空において2020年より増加したCO2排出量について、各運航者の排出量に応じた割当が行われる。
- 2030年以降は段階的に各社のCO2排出削減量を反映した割当に移行

パイロットフェーズ	2021-2023年
第1フェーズ	2024-2026年
第2フェーズ	2027-2029年 2030-2035年 ※第2フェーズにおいて、オフセット義務量の算定方式 2027-2029と2030-2035年で異なる。



出典：炭素市場エクスプレス

CORSIAに活用可能なクレジット

- 2019年7月時点で14のクレジットスキームがCORISAに応募。2020年3月13日にICAOがCORSIA(第1フェーズ:2021-2023年)に活用可能なクレジットスキームを承認。
- 2016年1月1日より開始されている活動で、2020年12月31日までの排出削減を対象。

承認されたスキーム

- American Carbon Registry
- China GHG Voluntary Emission Reduction Program
- Clean Development Mechanism
- Climate Action Reserve
- The Gold Standard
- Verified Carbon Standard

再評価を実施

(プログラム変更があった場合)

- Thailand Voluntary Emissions Reduction Program (T-VER)
- British Columbia Offset Program (BCOP)

条件付き承認スキーム

- The Forest Carbon Partnership Facility
- The Global Carbon Council

評価対象外

- myclimate
- Nori
- REDD.plus
- The State Forest of the Republic of Poland

出典:ICAOプレスリリース <https://www.icao.int/Newsroom/Pages/ICAO-Council-adopts-CORSIA-emissions-units.aspx>

まとめ

- パリ協定第6条のもとで、多くのパイロットプロジェクトが今後、開発される見込みであり、既に確立されている二国間や地域間の市場に対する注目が高まる。
- ICAOのCORSIAに活用可能なクレジット制度の決定により、CDMや自主的炭素市場等のプログラムからクレジットを発行する機会が増加すると見込まれる。
- COP26で議論されるパリ協定第6条の決定に従って、ダブルカウントを防止することが不可欠。